

優しい保育士になりたい

■ 松山東雲女子大 ■

遊びを学ぶ学生らまつり

二十四節気にちなんも専攻の1年生が6月だ遊びを学んでいる松28日、キャンパス内の山東雲女子大(松山市チャペルで七夕まつり桑原3丁目)人文科学を開いた。付属幼稚園部心理子ども学科子ども児らも参加し、願いを



色とりどりの飾りをササにくくり付けた松山東雲女子大の学生

込めた短冊をササに結びつけるなど夏らしいひとときを楽しんだ。保育士などを志す学生が四季折々の子どもの遊びを研究する授業の一環。新型コロナウイルスの感染対策をしながら、学生や教職員、園児と一緒に楽しめるまつりを企画した。

参加者はチャペル内に飾る6本のササに、折り紙で作った天の川やちようちんを飾り付け。「コロナが早く収まりますように」「優しい保育士になりたい」など、思い思いの願いを込めた短冊もくくり付けた。

1年の青野有紗さん(18)は「幼稚園以来の七夕飾りで懐かしかった。最近イベントもなかったので、久しぶりにみんなで一つのことをできてよかった」と話していた。

(曾我しずく)